

平成28年度 学校評価実施報告書

2 2回目評価

・個別評価項目の設定及び各項目にねらいを定めた取組の計画・実施 ・取組結果を検証するためのアンケート項目や各種指標の設定			
分野	評価項目	(1回目評価を踏まえた) 年度末までの取組	(取組結果を検証する) アンケート項目・ 各種指標
確かな学力	授業改善	・各教科における分かりやすい授業・言語能力の向上を基本に据えた授業の充実 ・双方向での言語活動の実施 ・研究授業の実施	・学習確認プログラムの結果 ・生徒アンケート「自分の考えや気持ちを、相手に分かりやすいように伝えようとしている」 ・保護者アンケート「友達の意見をよく聞き、自分の意見をはっきり述べる事ができている」
	家庭学習の習慣化	・各教科における課題の内容や出題方法の検討	・生徒アンケート「自分の将来のために、進んで学習に取り組んでいる」 ・保護者アンケート「家庭で宿題や他の学習など自主的に学習に取り組む習慣ができている」
	読書の習慣化	・朝読書の定着 ・毎月の地域ボランティアによる読み聞かせの実施 ・読書紹介	・保護者アンケート「すすんで読書に取り組む姿を見させている」 ・毎月の地域ボランティアによる読み聞かせの実施 ・朝読書や毎月の読み聞かせの実感
豊かな心	公共の精神に基づく態度の育成	・毎朝の挨拶や声かけの取組 ・道徳・特別活動・総合的な学習の時間の工夫	・生徒アンケート・保護者アンケート「場所や相手に合わせて、あいさつや言葉づかいなど礼儀正しく行動している」
	自己有用感を感じさせる取組の充実	・生徒による「自主企画・自主運営」の徹底 ・C・G・H活動の取組の充実	・生徒アンケート「自分からやるべきことを見つけたり、役割分担をしながら、力を合わせて行動しようとしている」
健やかな体	自他を大切に する態度の育成	・基本的生活習慣の確立 ・携帯・スマートフォンの弊害についての呼びかけ	・生徒アンケート「決められた時間や約束を守っている」 ・「早寝・早起き・朝ごはん・排便など基本的な生活リズムや健康に気を付けている」
	運動する機会の 充実と体力の 向上	・生徒全員入部制の部活動の充実	・生徒全員入部制の状況 ・学年スポーツなどの企画実施状況
独自の項目	小中一貫教育の推進	・小中合同授業研修会の実施 ・保・幼・小・中や地域との連携の取組の充実 ・異文化理解、国際理解教育の充実	・組織的な小中連携体制 ・各取組後の生徒の感想など



・アンケート実施結果、 その他指標の結果について整理	自己評価	
	評価日	平成29年2月17日
	評価者・組織	谷口 妃都美
アンケート結果・ 各種指標結果	分析 (成果と課題)	分析を踏まえた改善策
・国語科における数値が全市平均を上回っている。 ・「相手にわかりやすく伝えようとしている」と答える生徒が8割を超える。 ・「自分の意見をはっきり述べる事ができてい」と答える保護者が「前期よりも増加し7割を超える」	・各教科の授業における言語能力の向上を基本に据えた授業が定着できていると考える。 ・学習に対する姿勢や学習習慣が十分に身につけていない生徒に対しては、放課後の補充学習をすることで改善を図ることができたと考える。	・義務教育としてキャリア教育の視点を持ち、9年間を見通したカリキュラムの開発を更に推進する。 ・小学校との連携や共同研究により、国語・数学(算数)を中心に横断的な言語活動を行い、考える力及び表現する力を養うことを推し進める。
・「進んで学習に取り組もうとしている」と答える生徒が前期よりも増加し8割を超えている。 ・「自主的に学習に取り組む習慣ができている」と答える保護者が「前期よりも10%増え、約8割がそう感じている」。	・基礎基本を中心に据えた課題と探索的な課題、いずれも生徒の実感を踏まえ、丁寧に取り組むことができてきた。 ・「自主的に学習に取り組む習慣ができている」と答える保護者が「前期よりも10%増え、約8割がそう感じている」。	・生徒自身の主体的かつ継続的な学習習慣確立にむけた意識を高めるとともに家庭との連携を図る。 ・継続的に基礎基本を中心に据えた課題と個に応じた探究的な課題を有効的に活用する。
・「すすんで読書に取り組む姿を見せている」と答えている保護者が10%近く増え、6割を超えている。 ・読本が話題になったり、読み聞かせでの集中力が高まった。	・図書委員会による本の紹介や教科のビブリオバトルなどの取組が生徒の興味関心を高めることにつながったと考える。	・読書量を増やすためにも読書を推進すると共に、探究的な学習のために書籍を活用する機会を増やすことでより確かな学力の定着につなげる。
・生徒は94%と前期と変わらず、保護者は前期より6%増え、87%の肯定的に答えている。 ・保護者の8割弱が「子どもは互いの人権を大切にしようとする態度や気持ち育てている」と感じている。	・生徒会や部活動を中心に挨拶運動の取組をすることで、元気の挨拶をする生徒が増えている。特に、朝の登校時の挨拶がお互いに顔を合わせて挨拶をする生徒が増えている。	・GGH(グリーン・グリーン・ハート・ハート)活動のさらなる推進と地域と一体となった取組への参画を推進する。また、小学生との協働等においても公共の精神に基づく態度の育成を図る。 ・姉妹校との交流教育において、日本を見つめ直し視野の広い国際感覚と人権意識をもつ生徒の育成を目指す。
・88%の生徒が「自分からやるべきことを見つけたり、役割分担をしながら、力を合わせて行動しようとしている」と答えている。また、78パーセントの生徒が将来の夢や目標に向かって、それをかなえる方法について考えている」と答えている。	・「子どもは夢や夢があるが、目標をもって進んでいる」と感じている保護者が「前期よりも7%増えている。特に3年生は9割を超える保護者がそう感じていることは、「自主企画・自主運営」の手法による行事の取組が生徒自身を大きく成長させたと感じさせていると思われる。	・生徒による「自主企画・自主運営」を核とした活動を推進する。 ・地域全体に貢献する機会として地域と一体となった活動を大切にしている。 ・「いのちをみつめあう教育を推進し、前向きに生きる」姿勢を育てる。
・90%の生徒が「決められた時間や約束を守っている」と答えている。 ・67%の保護者が「基本的生活リズムや健康に気を付けている」と答えている。ただ、18%の保護者が分からないと答えている。	・テレビ等を視聴する時間は例年よりも減少傾向にあるが、携帯・スマートフォンなどを使ったゲームをする時間は増加傾向にある。家庭での時間などの約束をすることで、依存傾向にある生徒の行動を押さえることができる」と考える。	・規則正しい生活を送れるように、家庭と連携した取組の徹底 ・スマホやケータイ依存や利用の弊害について家庭の理解を図りながら、啓発及び推進を図る。
・「生徒全員入部制ではあるが、校外のスポーツ団体に属する生徒などは両立を図るため、文化系の部活動に属し、放課後の時間を有効に活用している」。	・試合などの成果はさけておき、より主体的に部活動に参加するかが今後の課題と感じる。	・「年間主体的に学年の枠を超え其道の目標に向かって継続して活動する精神の育成を図る。
・9年間を見据えた取組の一つに、ポスター発表を小中共に取り組むことで、学年にあった発表形態を取ることができた。 ・取組後の生徒の感想では概ね満足を得ているだけでなく、更に発展的な自己の成長を意欲したものになっている。	・小中連携として中学校が小学校にポスター発表の発信をすることで9年間を見据えて力をつけることができたと考える。より内容の充実を図るために、テーマ設定などの情報交換をしていくことが必要となる。	・日常的な情報交換と問題意識の共有を図りながら、小中連携による取組を推進する。 ・言語活動の充実を目指し、同じ方向を向いた研究を推進する。



学校名(京都市立西院中学校)

学校関係者評価	
評価日	平成29年2月21日
評価者 (いづれかに○)	学校運営協議会 学校評議員
学校関係者による意見	学校運営協議会・ 学校評議員による 改善に向けた支援策
・保護者アンケートにおいて家庭や地域での様子や分からないと答える保護者が1割程度あることが気になる。 ・個の興味関心に応じた取組や協働による取組において生徒の力を伸ばすことにつながっている。	・自主的に勉強したい生徒が学習できる支援方法や生徒の居場所作りを学校とともに検討していきたい。
・家庭内での親子関係の改善が考えられる。学校・家庭・地域に加え関係機関などとの連携を図りながら、子どもの落ち着いて学習に取り組める環境作りが必要と感じる。	・自分で頑張る力をつけるために、学習の方法の啓発などを共に考えていきたい。
・日常生活の中で読書紹介のポスターや話題を増やすことが子どもの読書に関する関心を高めることにつながっている。 ・娯楽としての読書だけでなく、個の興味関心を深める読書につながるためにも、図書室・図書館の充実・活用を推し進めたい。	・学校が文化の発信者として、読書の機会を増やしたり、新聞記事の掲示をしたりして関心などの取組に対し、支援をするともに、地域の学習支援ボランティアによる読み聞かせを続けていく。
・自然と挨拶ができる雰囲気・環境を作ることや生徒の素直さが伸びている。 ・道徳や人権学習だけでなく日常的な取組の中で人間形成により影響を与えている。	・多くの取組を通して公共の精神に基づく態度を育てていく。 ・挨拶ができる子どもを育てるためにも、地域の大人からも率先して気持ちのいい挨拶を心がける。
・生徒の主体的な取組を推し進めることで、自己有用感が高まっている。地域・社会の一員としての自覚を高めることでより自尊感情も高まると考える。	・地域と一体となった取組を通して、自己有用感や自尊感情を高める機会としていくと共に、地域の一員としての自覚を高めていく。
・スマホやケータイの所持率が高い一方で、正しい使い方を生徒に伝えるだけでなく、各家庭でも共通理解し弊害防止に努めたい。 ・規範意識の向上、他に流されない指導の徹底を図る。	・自主企画・自主運営の手法を活かした取組に対し、助言者・支援者として地域にも協力を得て進めていきたい。
・全員部活動制で実施できたことは、結果や教育効果は多大であったと考える。	・学習環境を整え、よりのびのびと活動ができるように支援をしていきたい。
・中学生が小学生にゲストティーチャーとして発信することは双方の取組に効果があると考える。 ・独自の取組において、生徒の探究心をより伸ばしていく刺激を与えることが大切と考える。	・一・小中一貫の環境を強みとして、9年間を見通した活動を地域と共に進める。

3 総括・次年度の課題

- ・「自主企画・自主運営」の手法で生徒を伸ばすことを大切に、主体的・意欲的に学ぶ姿勢を育てる。
- ・多様な価値観、高い倫理観や共生の心などを、集団のコミュニケーションの中から育てるために、体験や道徳、学習活動の工夫を進めていく。
- ・小中一貫教育や地域に開かれた学校として、学校・保護者・地域が同じ目標で生徒を育てていく体制をつくる。
- ・日頃の全ての教育場面でキャリア教育の視点を大切に、社会とつながり、貢献できる生徒の育成を推し進める。